

海外事業への影響についてのお知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、6月5日現在、95%にも及ぶ現地事務所の活動が制限されています。当財団が活動する東ティモールおよびタイにおいても、事業実施にあたり、現地での活動が大幅に制限または一時的に中断されています。

■東ティモール

●農業用水改善事業

東ティモールにおいて3月29日から施行された国家緊急事態宣言は、5月27日までの再延長が更に30日間延長されました。CARE東ティモールのディリ事務所および各地のフィールド事務所はともに稼働しているものの、大人数が集まる活動が禁止されるなど、新型コロナウイルス感染拡大にかかる緊急対応以外の既存事業が大きな制約を受けています。

4月に開始を予定していた本事業については、国家緊急事態宣言が発出された時期とも重なり、また、東ティモール政府が日本を含む感染国からの外国人の入国制限措置を継続していることから、日本人駐在員を派遣できておりません。6月10日現在、事業開始時期の見込みが立っておりません。

●学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業

Facebookを通じた新型コロナウイルス感染予防啓発メッセージ(例:20秒間の手洗い励行やソーシャルディスタシング等)の発信等、遠隔で可能な情報発信に注力しています。移動には制限があるものの、学校や地域の協力を得て遠隔地域のおよそ60の学校に学習雑誌「ラファエック」を配布したり、

保健省を通じて手洗い励行ポスターを同じくおよそ60の集落に配布したりした他、性差に基づく暴力(GBV)を防止する啓発用リーフレットを作成し配布するなど、「ラファエック」の配布網を活用して、新型コロナウイルス感染予防活動や生活制限によるストレスで増加傾向にあるGBVの防止活動を進めています。

■タイ

●理数系(STEM)教育を通じたリーダーシップ育成事業

2020年3月、本事業の第1期を終了し、4月には第2期の活動開始を予定していました。しかし、同時期にタイ全土を対象に緊急事態宣言が発令され、6月末まで、タイ全土で学校の休校措置がとられています。これにより、当初予定していた活動の多くは、学校再開を待つ再度スケジュールの調整をせざるを得ない状況です。現在、CAREタイのバンコク事務所職員は、支援者であり事業実施パートナーでもあるNISSAN MOTOR (THAILAND) CO., LTD.および支援対象校の教師らと協議を重ね、教材開発やベースライン調査*の準備など、遠隔で可能な活動から進めています。

*プロジェクト開始前の指標の状況(基準値)を把握するための調査

当財団は、職員および東ティモールとタイの人々の安全と安心を第一に考慮し、現地事務所ほか、日本の外務省および主要ドナー等関係者との相談を密にし、適切な事業開始時期等について、引き続き、調整をして参ります。皆さまのご理解を、よろしくお願いいたします。

歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2020」へのご協力ありがとうございました

本年度のキャンペーンでは、お一人おひとりが普段の生活の中で取り組むことができる「好きな時間、好きな場所で歩く」に、過去最多の649名が参加されました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、チャリティウォーク・イベントを中止するなど、集まって歩くことが叶いませんでした。その一方で、参加者の皆さまからの歩数やコメントのご報告、Facebookグループ内での交流を通じて、これまで以上にオンラインでの交流に意義を持たせることができました。また、在宅勤務や外出自粛で歩く機会が減る中、参加者の皆さまには、毎日のように水汲みに行かなければならない「女性や女子の身になって歩く」ことを、より意識していただけたのではないかと思います。

来年2021年は、キャンペーンの10周年となります。より多くの皆さまとともに歩いていけるよう、来年はさらにパワーアップしたキャンペーンをお届けいたします。(マーケティング部 協坂)



CAREの頭文字「C」の写真投稿者につき100円が寄付に。今年は自宅で作った「C」がたくさん集まりました。

編集後記



●新型コロナウイルスの感染予防には、こまめな手洗いが有効といわれますが、世界の人口の4割にあたる30億人もの人々は、自宅(敷地内)に石けんや水で手洗いでできる設備がありません。皆さまの温かいご協力により4月から開始した「新型コロナウイルス感染症緊急支援基金」は、6月10日現在、すでに6,728,906円ものご寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。そして、いただいたご寄付は、ひとりでも多くの命を守るため、しっかりと現地へ届けてまいります。(神)

●2月中旬、新型コロナウイルスを警戒しながら、タイの事業地を訪問してきました。理数系(STEM)教育を通じたリーダーシップ育成事業の対象校を訪問したり、生徒さんと一緒に職業訓練校を見学したり、本事業の第1期の成果発表会に出席したりしました。それぞれの場面の主役は生徒さんたちでしたが、陰で生徒のために孤軍奮闘しておられる先生たちの姿に心打たれました。第2期では、学校を超えた先生たちのネットワーク構築支援なども行っていきます。引き続き、この事業を見守っててください。(甲斐)

個人支援者専用ダイヤル TEL:03-5499-9931

生きるチカラ あなたのキモチ

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階

TEL:03-5950-1335 FAX:03-5950-1375

E-mail:info@careintj.org Website:www.careintj.org

Facebook:www.facebook.com/CAREjp Twitter:https://twitter.com.CAREjp

※小誌へのご意見、ご感想を募集しています。発行元までお寄せ下さい。

※このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREのデザインボランティアの大橋久美様のご協力により、制作されています。



CARE World

変える、女性も女子も活躍する豊かな世界に

Vol. 39 ケア・インターナショナル ジャパン Newsletter June 2020



ケア・インターナショナル ジャパンは、世界100ヶ国以上で人道支援活動を行う国際NGOケア・インターナショナルの一員です。災害時の緊急・復興支援や「女性と女子」の自立支援を通して、貧困のない社会を目指しています。

Contents

page 1 新型コロナウイルス感染拡大への対応

page 2-3 新型コロナウイルス感染症緊急支援事業

page 4 海外事業への影響 歩く国際協力 「Walk in Her Shoes 2020」



©DANIEL ROMANA/CARE

新型コロナウイルス感染症緊急支援 CAREはどのような初動対応を行ったのか

CAREの対応、当財団の対応

2020年5月25日、日本全土においてもようやく緊急事態宣言が解除された新型コロナウイルス感染拡大は、当財団にとっても、試練の連続でした。この未曾有の危機に対し、当財団がどのような初動対応を行い、どのような教訓を得たのかを、皆さまにご説明させていただきます。

2020年3月11日、世界保健機関(WHO)は、新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)を宣言。その後3月17日、当財団は、それ以前より奨励していた在宅勤務を、原則全ての職員とインターンに課すことを決定しました。

一方、ケア・インターナショナルは、3月19日、事務局長会議において、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大とそれに伴う社会的経済的危機に対応するため、緊急事態宣言を発出。同時に、CAREとしてグローバルな連携と連帯のもと、新型コロナウイルス感染症への対応を優先して一致団結して取り組むことを確認し、そのための必要な資金を支援者に呼びかけることを決定しました。これを受け、4月2日、当財団は、日本国内において「新型コロナウイルス感染症緊急支援募金」を開始しました。そして、4月7日に東京都の緊急事態宣言発令に伴い、財団設立以来初めて事務所を一時閉鎖しました。5月31日まで続いた事務所閉鎖は、職員やインターン、ボランティアおよび関係者の安全と安心を

優先したことによるものです。その間、支援者の皆さまには、イベントの中止、ご寄付に関する郵送業務や手続きに関する遅延等、大変ご不便をおかけしました。皆さまのご理解とご協力、そして、あたたかいご寄付に対しまして、この場をお借りしまして、お礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大が問いかけるもの

さて、今般のパンデミックから私たちは何を学んだのか。今次のようなパンデミックを単なる偶然と捉えるのではなく、地震や台風といった自然災害のように定期的に発生するものと考え、緊急支援を行う対象として備えておく必要があるということです。

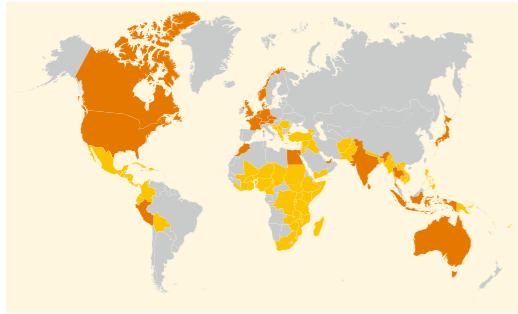
また、このような感染症は、正確な知識と予防で防ぐことができるということです。CAREが活動を行っている途上国や紛争地域においては、日頃から行っている手洗い指導を強化しました。日本でも課題となりましたが、確かな情報をいかにコミュニティに伝え、行動変容につなげていくのが現場のスタッフが直面した大きな課題となりました。そして、今も、世界各地で現場のスタッフは、この課題と向き合っています。

最後になりましたが、日頃より支援者の皆さまのお顔を拝見したり、お会いしたりして活動のご報告をできることが如何にありがたいことかを痛感いたしました。皆さまには新型コロナウイルスの終息まで、ご健康と安全にお気をつけて過ごされることを願ってやみません。

(事務局長 池田 卓生)

新型コロナウイルス感染症 緊急支援事業

■メンバー国 ■事業実施国



医療・介護従事者や難民など感染リスクの高い人々と社会的に弱い立場におかれた人々の命を守る

活動地域: 全世界
実施期間: 2020年7月 ~ 2021年6月(1年間)
年間事業規模: 7,924千円
(総事業費: 1億ドル *2020年12月までの資金調達目標額)

新型コロナウイルスとの闘いを続けている世界は、今、まさに、公衆衛生状態が劣悪で医療システムが脆弱な途上国や紛争地域への感染拡大を阻止するという大きな課題と対峙しています。CAREは、エボラ出血熱や重症急性呼吸器症候群(SARS)などの感染症への対応経験を活かし、社会的に脆弱なグループや人々を対象に支援事業を展開しています。特に、最もリスクの高い17の国を重点におき、短期的には緊急の感染予防活動を展開することで救命につなげます。長期的には、同様の感染症の再出現とまん延を予防するため、コミュニティ、世帯、個人の回復力や抵抗力の強化を目指します。

重点対象国と地域(順不同)

| | |
|------|-------------------------------------------------------------|
| アジア | フィリピン、ミャンマー、バングラデシュ、ネパール |
| アフリカ | 南スーダン、チャド、ブルキナファソ、ニジェール、シエラレオネ、ナイジェリア、ソマリア、ジンバブエ、エチオピア、ウガンダ |
| 中南米 | ハイチ |
| 中東 | パレスチナ自治区、シリア北東部、レバノン |

具体的な活動内容

公衆衛生の啓発
手洗い指導、感染予防に関する正確な情報発信など

ハイチでは、新型コロナウイルスに関する誤った情報を是正するために取り組んでいます。ロックダウンなどで集会の制限がある地域では、モバイル媒体や拡声マイクなどを活用し、工夫して重要な情報を伝えています。

バングラデシュでは、手洗い指導はもとより、人との距離をおくことの重要性も伝えています。



2

安全な水の供給
安全な飲料水の確保、衛生用品の配布など

世界各地で既に行っている水と衛生の事業を強化しています。特に、密集した生活を強いられる難民キャンプにおいては、人々が安全な水にアクセスできているか、衛生施設が適切に維持されているか、除菌が十分になされているかを確認しています。



シリア北西部では、水のタンクの除菌、200か所の手洗い場の修理・補修、50の貯水タンクの設置を行うなど、水のインフラ対策に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症が男女に及ぼすインパクトの差

まだ検証可能な十分なデータはないものの、男性が僅かながら女性より新型コロナウイルスへの罹患率が高いといわれています。しかし、これは、女性や女子がより安全であるということではありません。全世界的に家庭などで病人や高齢者、子どもの世話を含む無償のケアを担う者の76.2%が女性。感染者数が急増し、医療施設の患者受け入れ能力を超えると、必然的に感染者のケアを女性が家庭で担うことになり、すでに家庭内で多くの労働を担っている女性の負担は著しく増大します。

また、医療施設では、介護者や看護者の約7割を女性が占めており、防護措置も不十分な中、医療の最前線に立つ女性の感染リスクが懸念されています。さらに、感染者の隔離や経済的な苦境におかれた世帯ではストレス

新たな日常への対応

「支援を届けるための新たな方法を模索しています。想像力を働かせ、最も支援を必要としている人々に必要な支援を届けるために、テクノロジーなど最新の技術を活用しています。この危機より、世界各地のCARE事務所でも、支援の現場でも、新たな日常に迅速に対応する局面を迎えています」

支援物資や現金の配布
食糧と生活必需品の配布など

フィリピンでは、最も弱い立場におかれた人々に、1か月分の食費に相当する現金を支給し、外に働きに出る必要がないよう支援しています。



フィリピンのミンダナオ島では、紛争により弱い立場におかれた人々に、衛生キットに加え、食糧の配布も行っています。

が著しく高まり、結果として家庭内暴力(DV)や性的搾取が増加する傾向があり、すでにこの兆候は確認されています。これら女性へのインパクトにも対応すべく、前述の活動に加え、医療の最前線で働く女性へのサポート、女性を対象とした公衆衛生に関するメッセージの発信、女性に必要な不可欠な保健サービスの提供(性と生殖に関する保健サービス等)、性差に基づく暴力(GBV: Gender Based Violence)の予防と対応に関するサービスの提供も同時に進めています。

ソフィア・スプレッチマン
ケア・インターナショナル事業部長*



*6月1日にケア・インターナショナル事務総長に就任しました。

3